

広陵中だより



学校の教育目標
～ひびき合い 高め合う生徒～

発行所; 可児市立広陵中学校
第4号 発行日; 令和7年6月24日

「人権と命を大切にする学校」「明日も来たくなる学校」「笑顔溢れる学校」

校長 桂川 辰也

「安心感」が先？ それとも 「信じる」が先？

6月14日(土)可児市文化創造センターaLaにて「少年の主張 可児市大会」が開催されました。市内6校から選ばれた12名の生徒が、堂々と自分の考えを発表しました。

本校代表の一人は、「タガメから学ぶ 未来へ繋がる小さな行動」というテーマで、小さな行動の積み重ねが、住みやすい環境づくりにつながることを訴えました。もう一人は、「性の多様性が受け入れられる社会へ」というテーマで、自分らしく生きることに悩む人たちが「ありのままの自分で良い」と感じられる社会を創りたいと訴えました。

他校の発表も含め、自分自身の考えや経験を赤裸々に語る姿に、私は強く心を打たれました。それができたのは、各学校や会場全体に「安心感」が漂っていたからだと思います。そしてその「安心感」は、発表者が他人を信じ、勇気を出して思いを語ったからこそ生まれたものではないでしょうか。「安心感」があるから「信じる」ことができるのか？「信じる」ことで「安心感」が生まれるのか？彼らの姿から改めて考えさせられました。

広陵中だけでなく可児市の未来はきっと明るい！そう確信できる一日でした。

※ 写真は、アトラクションで演奏を披露した本校吹奏楽部の様子です。また、3名の生徒がボランティアとして大会運営にも参加してくれました。



部活動激励会より

最後の夏に向かう3年生に「お願い」と「アドバイス」を一つずつしました。応援時のポイントとして意識していただければ幸いです。

- 夏を勝って締めくくることができるのは、日本中で1チーム、個人なら1人だけです。殆どの中学生は負けて最後の夏を終えます。勝つこと以外価値がないなら、殆どの中学生の日々は無意味ということになってしまいます。皆さんを応援し続けてくれた保護者やコーチが「応援してきてよかった」と心から喜び、後輩たちのこれからに繋がる姿はどうあるべきかを頭に思い浮かべ、最後の大会に向かってください。
- 校長先生は指導者として中体連の全国大会5回、東海大会18回の出場経験があります。経験上、多くの中学生は緊張その他で持てる力の半分ぐらいしか出せずに最後の夏を終えています。「いつも以上のことを仲間に求めたり、自分自身やろうとしたりするな！」と部員たちに言ってきました。欲張らず、今できることを粛々とやるだけで、結果的に自分たちより強いチームに勝ってしまうことが多々あります。今のままでよいと開き直っていきましょう。キーワードは「安心感」です。